

13. 筋骨格系および結合組織の疾患

文献

弘田量二、岡愛子、倉本純子、ほか. 鍼治療の腰痛に対するメタアナリシス. *日本予防医学会雑誌* 2011; 6(3): 133-137. 医中誌 Web ID: 2012089371

1. 目的

腰痛に対する鍼治療の有効性評価

2. 研究デザイン

メタアナリシス (Meta-Analysis)

3. データソース

PubMed (検索語:acupuncture、lumbago、randomized controlled trial、double blind)で、本研究の目的に則した論文を2010年10月に検索。

4. 研究の選択

腰痛を対象に鍼群(効果があると考えられている場所に通常の深さまで刺入)と偽鍼群(浅く刺入または異なる部位に刺入)とを比較したRCT論文、12編が対象。reviewおよびメタアナリシスは除外。

5. データ抽出・統合

解析にはStatsDirect version 2.7.8(StatsDirect Ltd, CHESHIRE UK)を用い、オッズ比、95%信頼区間で示した。

6. 主要アウトカム・測定尺度

鍼灸単回治療直後の効果有無によるオッズ比 (OR)。Egger test、Begg test、ファンネルプロットを用いた出版バイアス有無の判定。Jadad scoreを用いた各論文の評価。

7. 主な結果

対象となった4論文のOdds Ratio 統合結果は1.19 (95%CI: 0.91, 1.56)と、有意差はみられなかった。出版バイアスは、数値による評価と、ファンネルプロットによる視覚的評価のいずれもバイアスは低かった。Jadad scoreを用いた各論文の質の評価は、いずれも満点となり、質的な差はみられなかった。

8. 結論・意義

鍼治療と偽鍼の間に有意差はみられなかった。

9. 鍼灸医学的言及

なし。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究では真鍼群が偽鍼群を上回る効果は示されなかったものの、鍼灸領域において本邦でのメタアナリシス論文は稀少であり、その試みが高く評価される。しかしながらいくつかの点において改善点がみられる。まず、原則、メタアナリシス及びシステマティックレビューを実施するに当たっては2人以上の独立した評価者が収集された論文をそれぞれ評価し、公正を期す必要があるがその過程が本論文においては不明であること、次に論文の質をJadad scoreを用いて評価されているが、Jadad scoreはその妥当性が疑問視されていることなどである。現在は、本邦においても数は少ないが鍼灸領域のRCT論文が発表されてきている。今後これらのRCT論文も含めたメタアナリシス論文が作成されることを期待する。

12. Abstractor and date

大川祐世 2016.12.8

※追記 (山下仁 2022.3.17)

このメタアナリシスは海外の4つのRCT論文を採用したとされているが、そのうち1編の表示が、文献リストの書誌情報でも図表の筆頭著者表示でも間違えており、実際は1編は日本で実施されたRCTの論文である。残りの3編はイギリス、アメリカ

カ、ドイツで実施された RCT の論文であり、メタアナリシスでのウェイトはドイツの RCT が 90%以上と非常に大きい。いずれにしても、このメタアナリシスは、本邦から日本語で発信された、海外の RCT 主体のメタアナリシスである。

このメタアナリシスは PubMed 検索のみで文献収集しており、文献の組入基準や除外基準、文献選択のフロー図、バイアスリスクの評価など PRISMA 声明に基づく報告すべき項目が著しく乏しい。また、日本の RCT 論文から抽出した数値データは症状改善指標とは無関係の「刺入感覚の有無」である。なお、二値アウトカムの表示されている RCT 論文を採用してオッズ比のメタアナリシスを行っているが、実は連続アウトカムを表示している RCT の数のほうが多い。

以上の諸事情を踏まえて、このメタアナリシス論文を読む必要がある。

(この追記は、以下の論文の記述を引用・改変した：

山下仁, 大川祐世, 増山祥子. 腰痛診療ガイドライン 2019 の鍼治療に関する誤情報. 全日本鍼灸学会雑誌 2019; 69(3):156-165.)